

市長とトーク



市民の皆さんと市長が対話した内容などを紹介します。

詳細 市民の声を聞く課
☎211-2042

「サッポロスマイルトーク」を2月に開催しました

テーマ 考えよう！感染症への備えとわたしたちの暮らし
新型コロナウイルス感染症について、これまでの振り返りや市の対策への提言・助言、今後の暮らしをテーマに4人の方と市長が対話しました。

当日の様子を配信中



サッポロスマイルトーク [検索](#)

サッポロスマイルトークとは？

市民の皆さんと市長が、市政に関することをテーマに意見交換。今後のまちづくりへのアイデアを見つけていく取り組みです。

話し合われた 内容の一部を紹介



感染症コンサルタント/
北海道科学大学
客員教授
きしだ なおき
岸田直樹氏

検査体制の整備やワクチン、治療薬の開発により、ゼロコロナから、どうコロナと上手に付き合っていくかへと対策の軸足が変わってきている。今後は、コロナへの感染を隠さない、感染した人をとがめないことが重要。

北海道医療大学
看護福祉学部教授
つかもと ようこ
塚本容子氏



ワクチンは効果があったが、今の段階では6・7カ月が限度。また、オミクロン株は軽症といわれているが、皆さんが思っているほど軽症ではない。医療体制が担保できれば、安心して暮らせるようになるのではないかと。



すすきの
観光協会会長
おおしま さみつ
大島昌充氏

すすきのでは、全国に先駆けて感染防止マニュアルを2回作成してきた。今後、飲食店はサービスの質やおいしさだけでなく、感染対策を取っているかなど、選択する基準が変わってくると思う。

北海道大学大学院
経済学研究院長・教授
ひらもと けんた
平本健太氏



市専門家会議という場があり、そこで出た専門家の意見が市の対策に迅速に反映されている。また、これまでの対策に効果があったのか、きちんと検証をした上で、元の暮らしに近づけていく必要がある。



札幌市長
あきもと かつひろ
秋元克広

前例のない中で医療提供体制の構築、入院待機ステーションをいち早く作るなどして、取り組んできた。市民の皆さんと一緒に感染対策を行い、一日でも早く通常の生活を取り戻せるようにしていきたい。

広告